

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090400118		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームすもも		
所在地	群馬県伊勢崎市太田町856-1		
自己評価作成日	平成24年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成24年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>食事のメニューなどバランスの取れた献立に工夫しています。 たんぱく質、ビタミンなどを考慮したおかげで、便秘をする方が少なくなりました。 朝食にヤクルト1本つけています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者が地域で当たり前の暮らしを続けられるよう、地域住民との交流を進めている。災害時の協力的体制づくり、毎月ボランティアによるリハビリ体操の実施、園芸ボランティアによる花壇の手入れや収穫祭への招待等、地域住民の協力を得る機会が多い。事業所主催のクリスマス会等にボランティアを招き、利用者と職員が交流を図っている。利用者の居室は、思い出の品々や本人の作品(絵画・ジグソーパズル)等が飾られ、その人らしい居室づくりがなされている。皆で和気あいあいと話し合う等、職員の温かい見守りの中で、利用者が伸び伸びと暮らしているように見受けられた。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基本に行動している。 迷ったときは理念を読み理解し、基本に戻り実践している。	管理者と職員は、会議やミーティング等でケアの方向性を確認しながら、理念の実践に繋げている。入職時に理念について教育をしている。地域の人々と仲良く共存し、愛と笑いの絶えないホームを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度、地域のボランティアの方々に来訪して頂き、リハビリ体操を利用者様と一緒に行って頂いている。	地域のボランティアに花壇の手入れをしてもらった際にお茶の接待をしている。職員と利用者が園芸ボランティア主催の収穫祭に招かれ参加している。毎月、地域のボランティアが来訪し、利用者と一緒にリハビリ体操等を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月ごとの推進会議に地域の方々に参加してもらい、議題について話し合い意見を参考にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議に議題として外部評価の考評などを話し合い、ホームの向上の参考にしている。	運営推進会議は定期的に開催されている。利用者も参加している。運営状況や評価等について報告を行い、外部評価や身体拘束、看取り等についての話し合いを行っている。そこでの意見等をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない事はすぐに行政へ相談に行くようにしている。	法人の担当者が報告・相談等で市の窓口へ出向き、市の担当者と連携を図りながらサービスの向上に取り組んでいる。法人の担当者はホームに出向く機会も多く、管理者と日常のホームの様子を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はオープンにしているが、不穏時や人手が足りないときは閉めさせて頂いている。	「身体拘束その他の行動制限廃止マニュアル」を使用し、勉強会を実施している。入居した利用者が不穏のため、日中、人手が足りない時には玄関の扉を施錠している。利用者の状態が落ち着いたら、開錠していく方針である。	利用者一人ひとりのその日の気分や状態像を把握し、職員の連携で見守りの方法を徹底しながら、日中は玄関の鍵をかけずに、安全に過ごせる工夫を重ねてほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議で虐待について議題として取り上げたり、また見過ごされていないか日頃から注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見人制度を利用していた利用者様がいたので、いろいろ勉強となりました。各職員が向上心を持って取り組みたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書・重要事項説明書に基づいて管理者が対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加を呼びかけ、ご家族の要望等にそえる努力を心掛けている。	運営推進会議では、利用者や家族等から意見・要望等を聞くように努めており、出された意見等は運営に反映させている。年1回、家族アンケートを実施して法人本部で纏め、意見・要望等に対する改善策をホームに掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を通じて、ホームでの改善点や意見を出し合えるような取り組みを図っている。	職員の意見・要望等は日報の要望欄に記載してもらったり、職員会議等で意見や気づき等を聞くように努めている。個人面接等も行い、出された意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を通じて各職員が向上心を持って働けるようバックアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外問わず、研修に参加できる機会を整えており、共有できるよう心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状、同業者との意見を交換する機会は設けていないが、情報交換を通じサービスの質を向上させるために、社会資源の活用は不可欠であると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心配や不安を抱えながら入所されるわけであり、いかにしてそれをサポートしてやれるかが、我々職員の役目だと思うので、受容傾聴し従事していきたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から要望には出来るだけそえるよう心掛けておりますが、要望だけを鵜呑みにしてはいけないと思うので、クレームにならないような対応も必要だと思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	迅速な対応をし他の機関との連携を行い必要としている支援を模索し、サービスの提供に結び付けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	偏見的な見方をすることなく、グループホームは家庭生活の延長であるので、生活を共にすることで教えてもらうことも多々あるので、敬意を払って対応していきたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも日々の生活の中での出来事や情報を共有してもらうことで、絆を大切に共に支援していく体制を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が今まで培ってきた人間関係を損なうことなく、いつでも気楽に立ち寄れるようなホームを築けるよう心掛けている。	家族や友人等にいつでも来てもらい、居心地よく過ごしてもらえるように配慮している。薬局に買物に出かけたり、家族等と一緒に馴染みの美容院や墓参り等に出かけている。電話や手紙での連絡を取り持っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がトラブルにならないよう仲裁に立ち、円滑に関わりがもてる様に支援し、いつまでも気持ちよく楽しく過ごせるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移られた場合、今までの支援状況の説明やケアプランの提示、本人の好みなどを説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声掛けを多く行い本人の意向を察したり、昔話から思いを聞き取る。困難な場合は、ご家族との話す機会を設け、今までの生活などを聞き対応する。	フェイスシートで生活歴を確認したり、日常の会話や行動等から、本人の暮らし方の希望や意向等を汲み取るようにしている。家族等からも情報を得て、職員間で共有しながら、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の今までの生活や経験をたくさん聞き、サービス提供を行っているその方を多く知ることで良いサービスが提供できると考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズム、行動や様子から心身状態を観察し、記録を細かくすることで一人ひとりを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員でケアプランのモニタリングや、どう対応しているかの情報支援を行い、細かいカンファレンスを行う。	本人・家族等から思いや意向等を聞き取り、カンファレンス等で話し合い、意見等を反映させた介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い、3ヶ月に1度の定期的な見直し、状態の変化に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の状態や一日の様子などを記録している。いつもと様子が違うときは、細かい申し送りを行い、記入漏れが無いよう職員で確認して業務を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況に応じて、その都度臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内で行われる行事や講習会には、利用者様と共に積極的に参加し交流を深め、ホーム内で行う行事にも地域の方に声をかけ参加して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医の往診があり、受診・通院はご家族様に対応して頂いているが、家族の都合でどうしても行けない時はホームで対応している。	本人・家族等の希望するかかりつけ医となっている。家族等の付添いが出来ない場合には、職員が代行し、受診結果を報告している。月2回・協力医による往診が行われ、結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度必ず訪看が来苑し、常に連絡が取れるようになっている。一人ひとりの体調の変化に気づけるよう毎日のバイタル測定を行い、不良の際は記録、職員で協力し合い連絡・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際はその方の状態・情報を入院先へ細かく伝えている。また、時折見舞いに行き変化や状態を見ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いの場を多く持ち、どのようなケアを行うか、本人が何を望んでいるかを理解し、安心して最期を迎えられるよう、家族・医療関係者、事業者の関係者が協力・対応している。	入居時、本人・家族等に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を説明し、同意を得ている。段階に応じて家族等と話し合い、意向を確認しながら、主治医等と連携して関係者全員で支援に取り組んでいる。看取りについては、運営推進会議で話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回防災訓練を行い、地域の方々にも参加して頂き、緊急時の対応が地域と協力しすばやく出来るようにしている。また、ホーム内でも定期的に自主訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、いろいろな場面を想定し行っている。自主訓練の機会を多く持つよう日々の業務の中で行っている。	23年10月、消防署立会いで夜間想定通報・消火・避難訓練を実施しており、地域住民も参加している。24年2月、夜間想定自主訓練で通報・消火・避難訓練を実施している。24年3月、避難訓練を実施している。地域住民を含めた災害時連絡網を作成している。	利用者や職員が確実な避難方法を身に付けられるように、実践訓練の増加に期待したい。災害時に備えて食料等の準備を進めてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に年上の方だと理解し、意識して言葉使いには注意を払っている。居室へ入る際は、ノック・声掛けを行っている。	「職場における接遇の基本」を基に、学習をしている。言葉遣いには注意を払っており、職員の口調が強くなっている場合は、管理者が指導をしている。排泄介助や入室の際には、声掛けや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事、食べたいものなど要望がある際は、すぐ対応できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切に、話を良く聞き決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔、口腔等を本人にして頂き、出来ない人には声掛けしお手伝いをする。衣類も本人に選んでいただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は、音楽を聴きながらゆっくりと召し上がって頂き、一緒に食事をしながら見守りを行う。	利用者は調理手伝い・盛り付け・後片付け等を職員と一緒にやっている。職員も同じテーブルを囲み、楽しく食事できるよう支援している。利用者の希望を献立に取り入れ、畑で収穫した野菜を調理して楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを常に考え、メニューがかぶらないようにしている。水分は1300ccを目安に声掛けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、起床時等に行っている。出来ない方には介助し残存機能を活かし行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様各自の排泄パターンを把握し、なるべく排泄はトイレにて行って頂くよう声掛けし、トイレ誘導を行っている。	経過記録表(排尿・排便)を使用し、個々の排泄パターンに応じた声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄を大切に支援している。失禁時の対応については、本人のプライドを傷つけないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医の指示のもと、薬等で対応している。毎朝ヤクルトを飲んで頂き、ヨーグルトなどで便秘予防を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の体調、希望等に合わせて入浴やシャワー浴の対応を行っている。	火・木・土曜日の午前中から午後2時に架けて、入浴支援を行っている。入浴拒否の場合には、声掛けの工夫や時間の変更等で対応している。希望に応じて同性介助を行っている。清拭やシャワー浴の対応もしている。	職員の都合で曜日や時間帯を決めず、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて、いつでも入浴を楽しめるような支援に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じて暖房や寝具等を調節し、快く安心して休んで頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は本人に手渡し、見守り服薬まで確認を行っている。症状の変化等は、ケア記録に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲で日常生活の家事を手伝って頂くよう声掛けを行う。趣味や得意なことが出来るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力のもと、一緒に外出されたり、他ホームでの慰問行事や季節ごとの花見、日常的には外気浴を兼ねた散歩等を行っている。	散歩や買物に出かけたり、畑での野菜づくりをしている。新聞から情報を得て、花の見頃にドライブしながら花見に出かけている。法人内のグループホームを訪問したり、家族等と一緒に美容院・墓参り・一時帰宅・外食等に出かける等、日常的な外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より承諾して頂き、小額のお金を持っている方もいる。事業所が管理している方も、欲しいものなど一緒に買い物に行けるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時は、事務所の電話を利用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホール等には、季節の花を飾ったり、行事の写真や利用者様が塗ったぬり絵等を飾り、気持ちよく過ごせるよう工夫している。	室内は広く開放感があり、清潔が保持されている。ホールには季節の花を飾り、テレビやソファ等を設置している。壁に行事の写真や利用者の作品(季節の貼り絵やぬり絵等)を掲示している。畳の間では、利用者が休息できるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置いて、誰でも座ってテレビを観たり、談話が落ち着いて出来るようにしている。畳コーナーでは、横になって休めるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が今まで使っていた家具や、品々を持ってきて頂き、馴染みのあるものの中で、居心地のよい環境づくりに努めている。	各居室には、テレビ・筆筒・テーブルセット・ソファ・本人作の絵画・ジグソーパズル・時計・化粧道具等、馴染みのあるものや好みの品々が持ち込まれ、その人らしい居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の場所等、わかりやすいように大きな字で表示したり、手摺を設置している。		